

• 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 JAPAN

繪本通俗三國志

二編
一

21
221
11



池田東籬亭校正

萬飾戴斗畫圖

繪本通俗三國志

貳編
全十冊

京掘畫林

額田復額堂

岡田羣玉堂

梓

諸君看孔明云王業不偏安、固不可謂之王業而三國之終於鼎峙是勢之自然不得已也孔明始見昭烈於草廬中也先達跨有荆益結好孫權觀財反而敗死曹賊之軍誠使疆場不出他事惟

魏有百萬之衆。吾蜀協力躋角。距之不為甚難。無幾大事可成也。惱哉荊州之事。起於卒然。丹自相攻。國賊乃置之度外。七百里營一敗塗地。遂亡慙憤。死而天下大勢已去矣。雖然。荆襄者。吳蜀之衝也。蜀失之。則固陵以東。恐犯其有。或棄之以桂陽。

以南。不能保吳蜀。相讓魏。必攘之。荊襄入魏。二國後亡矣。此乃昭烈之所以不得不爭也。豈保其必勝哉。凡事出於意外。勢不得不已者。皆天也。雖孔明之妙。死於所逆觀。也。故曰三國之終。於偏安者勢不得已也。繪本三國志。刻成。或請余序。因書其大要。

以便言多世家云天保丙申六十有一月識

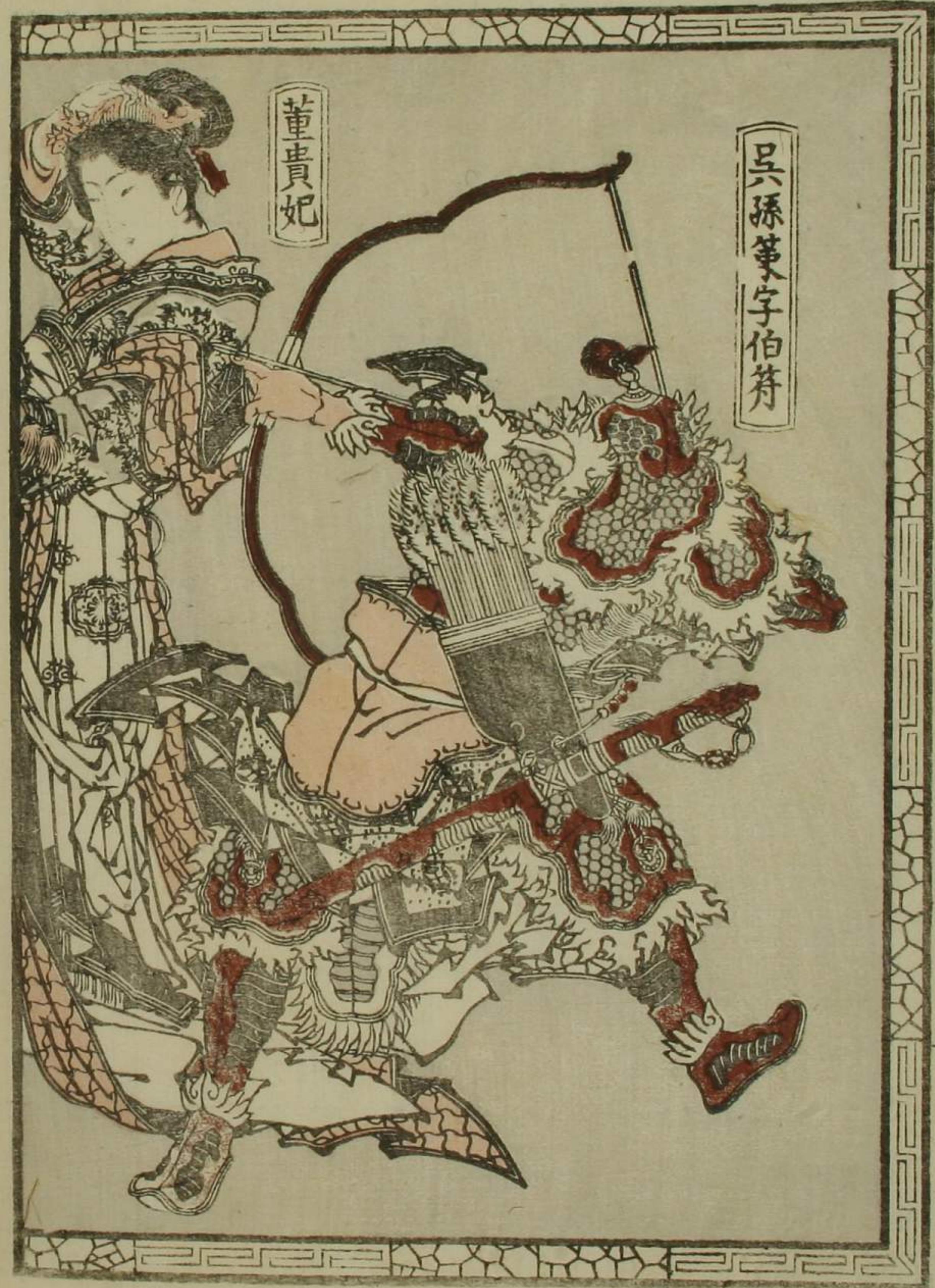
於東仰快雪堂东軒之

有桺川王府侍鑒

萬物秋去後







繪本通俗三國志一編總目錄

卷之壹

孫策大戰太史慈

孫策大戰嚴白虎

卷之二

呂布轅門射戟

曹操起兵伐張繡

卷之三

袁術七路攻徐州

曹操會兵伐袁術

決勝負賈紳於兵



卷之四

复侯惇拔矢啖眼
呂布敗走下邳城

卷之五

白門樓曹操斬呂布

曹操許田射鹿

卷之六

董袤密受衣帶詔

青梅煮酒論英雄

關羽襲斬車胄

卷之七

曹操分兵拒袁紹

關羽張飛擒劉岱王忠

祢衡赤裸罵曹操

曹操三勘吉平

卷之八

曹操勒殺董貴妃

玄德匹馬奔冀州

張遼義說關羽

關羽白馬刺顏良

關羽延津斬文醜

關羽遺書辭曹操

關羽千里獨行

卷之九

關羽五關斬大將
關羽擂鼓斬蔡陽

卷之十

劉玄德古城聚義
孫策殺于吉仙人
孫權領衆據江東

總目錄終

繪本通俗三國志二編卷之壹

目錄

孫策大戰太史慈
孫策大戰嚴白虎

繪本通俗三國志二編卷之壹

孫策大戰太史慈

爰々吳の孫策。父の孫堅が討死せり。後山江東の地をた
やちて。賢とあらわし。士とまほきなる。母方の舅は丹陽の太守
呉景といふ。舊の徐陵の太守陶謙と深き仇あつて。陶
謙大軍にて攻下し。沙汰あつた。孫策もとを防ぐべき
力あく。老母一族と曲阿といふ不る。藏へ。かたぐ身へ淮南
へ行け。袁術とぞ頼る。袁術をあひ。その才能を愛して。吾
子やちて。孫策がとくあうべ。死とも。復あゆう。あゆう
とりのち。義校尉。封。涇縣の大師祖郎といふ。の
や伐り。戦ひうて。又盧江の陸康を伐り。比

類あき手柄あらに筆が生辰術甚もよ汲みび酒宴を設けく持ほした。其夜月の光あらはて白日のとくあらを孫策天を仰ひて大嘆息し。さるよてもえふ父。世よ雙生た英雄よ。江東を攻取へり。且き其子と生れてかどす劣りなうと思ひ口へん隠き哭ひて坐がるふ。忽まらへ人外より来り笑ひやうる孫策もまた哭きゆる。御邊の父世のありしときより。所々事を詰めり。何事もよきと問ゆべと。只今乃獨哭ま。無益うりといふ孫策あどろひてまきとされば丹陽故鄣のふ。朱治字ハ君理と。昔父仕て従車たりてある。きあむち追くすと。すく哭くと。ひ入り志を繙りあふ。むとく日を送りやへりと云々。朱

治が曰く袁術は軍勢を借る。江東を回り舅の呉景を救ひ歸て。父の志を継ぐへ大夫夫たまのなんぞ。人の下と隣を出る。さく計を議す。後すり勿然と。是義まとふある。不我手下方精兵百余りあり。さきを以て力を副んといふ。そのう。人をと汲ひ。何をぞと問ひ。袁術が謀士。汝南細陽の人。呂範字は子衡。といふ。孫策大よろよんで。ともと計て。孫策が曰く。父が置て。玉を推量する。袁術軍勢を借る。と借人と田心ひいふ。呂範が曰く。袁術はね。帝位と即んと思ふ。是故玉玺を得。ようまん。後がん。孫策次の。日袁術よ。見えて。うそ。哭き。袁術その故を問ひ。孫策

やうえ父乃讐言。いま報せを常じしと掛け。今又舅男の呉
景楊州の刺史劉繇は政らき事。また急き。老母。初
かとて一族。まゝ曲阿。置ひ。まうだ敵よ害せ。もしくて。江を
思ふ。突き。ねづく。数年の兵を。もがらくのもの。借り。江を
渡す。兵景と。もくふ。其鳥。また父。遺す。至たる傳國の玉玺
を。貯め。畠さんと云々。ベ袁術玉玺。まよふ。人。喜む。巴生を
玉玺を。望む。あらゆる。おぞく。あがう。置。今兵三千人馬五
百足を。借じ。事果て。後へ。うぐ。通し。餘官爵ある。大
軍と。ト知らること。あく。ト。ヨシ。今折衝校尉殄寇將軍。
封。日を。そらん。打立と。太き。孫策。拜謝して。退ぞ。呂
範。朱治。王伴う。父が附す。後。程普。黃蓋。韓當を

引見。と。さと。よ歴。陽。まで出。を。が向。より。一人。の大將來り。近。あ
て。馬。より。下。孫策。あき。を。こ。ま。其人。面の美玉。の。と。唇。朱
朱の。と。姿。質風流儀表秀麗。胸。よ。經天。地緯。才
を。藏。や。腹。よ。安。那定。國の計。と。隠。と。廬江。舒城。の。よ。周
瑜。字。へ。公瑾。と。あ。と。と。父。孫堅。童卓。を。追伐。せ。と。と。是
周瑜。の。孫策。と。同年。あ。と。義。を。結。ん。と。兄弟の約。を。き
や。周瑜。へ。二月。を。そ。生。を。力。を。ぶ。と。弟。と。ど。定。や。る。今日。孫
策。が。是。と。ち。ら。を。通。と。聞。と。路。まで。出。む。と。と。家。よ。請。ど。け
れ。ば。孫策。其。家。よ。入。兄弟の。情。と。以。や。周瑜。が。母。を。堂。下。よ
年。と。そ。の。叔。父。よ。周尚。い。ふ。も。の。あ。う。丹陽。の。守。な。周瑜
が。家。よ。來。と。と。も。に。計。を。議。し。ま。と。周瑜。曰。某。が。將軍。よ

從弟。すもに江東を以て大馬の勞を辞せして。大業を建ん孫策大よよりよび呂範朱治と召し對面せさせ。ものに天下の事を議する。周瑜や々々將軍大業を與さんと思ひ。ようしく貴人をすねきへ江東よ張氏の賢人二人あり。知りへる孫策が曰く。いま「あぐ」。周瑜。白曰く。今ひろく群書を覽す。隸字と書且天文地理と明らう。あと彭城の人。張昭字子布といふをのう。又張紘貫通して。老子百家とあらう。また廣陵の人。と張紘字子綱。とやをのう。すもに世よまれう。才智よ。乱を避く。此處よ遁る。將軍とを用ひ。孫策をうるゝ喜び。使を遣して。招け。も固く辭りと果らう。自ら行

て禮を厚く。遂に伴えり來く。ともよ事と議を。言詔忘對。滔々として懸河を決ぐども。張昭長史撫軍中郎將。子。張紘を參謀正議校尉。兵を調て。揚州の刺史劉繇を攻め。議を。あく。劉繇字は正禮。と。漢室の一族。と。太尉劉寵。姪究州の刺史劉岱。弟。舊揚州の刺史なり。袁術よ追出され。曲阿よ。すき來り。と彭城の相薛禮下邳の相。融といふの二人。兵を集め。從弟。扶く。是を孫策が攻来る。聞て手下の大將よ樊能。干穀陳橫。張英。を。いふを。わざ。孫策が武勇。人。とぐく。ちを。を。怕る。いじて防ぐ。べきといふ。張英。を。出で。や。うち。某ねづく。一軍を引く。牛渚の要害を守り敵來ら。

討破うちやぶ。とを二人うちうちをやう。某もしの某もしが此度このたびの先陣せんたらん。諸人よしんも又またのぞとよすとが東葉とうよう黃縣おうけんの太史慈たいしそ字あざな子義ぎ。往日孔融こうゆうが止とどめよ北海城ほっかいじやうの圍いりを解とけて後あと是處そこより仕つかひつ。劉繇りゅうしゆ曰いわく。你なまこは先手さきの大將だいじょうを用もちひ。只我ただわたくし左右さゆうをもあきとよされと止とどめよ。太史慈たいしそ黙然だらんがくにて退しりぞ出で。と張英ばりえいが大勢だいせいを列ひらす。牛渚うしづを固かためら。兵糧へいりょう十萬石じゅうまんせきを邸閣ていかつとひふよ財ざいへ。まぐく守まもりと相待あいきらむ。孫策そんさくをもよ前まへままにままよせ。策さくをあらぐも足あとななき。自あら馬まを真先まへままよ。よ蒐それ。孫策そんさくが陣じんす。黃蓋こうがい刀とまほ。計ひと出だ火ひとち。と切合きりあとまろ。城じやうふ張英ばりえい。陣じんの後うしろす。乱らんくさる。ぐよ走はしり。まご孫策そんさく勢せいひよ乗の。追お蒐それを名なと改かる。

張英ばりえいを討うちき牛渚うしづをもよ深山ふかやまに逃にげる。孫策そんさく大おき討うち勝かつて敵の後うしろ火ひを掛かす。いふものぞと問たずぬ。二人の大將だいじょう言いふ。余よ琦きと率すと來くわり。孫策そんさくらををかく。一人ひとへ向むかし。真黒まくろと。鬚ひげ黄きみ。九江壽春きゅうじょうじゅしんの人ひと。蔣欽せうきん字あざな公奕こうぎ。字あざな泰たい字あざな幼平ようへい。二人ふたりと再拜さいはいと。我われ小丑こしゆうと。け。洋子江ようしこうの内うちよ人ひとをあ。強盜きょうとう追剥ついばくと。世よを渡わたり。が。いま將軍じょうぐんの賢けんと。まねたを聞き。仕えんと。ま。あり。然ぜん策さく甚じんごよろ。ひ。と軍前ぐんぜんの校尉こうい。牛渚邸閣うしづていかつ。と。兵糧武具へいりょうぶぐと奪だつひ取と。その勢せい四千余騎よき。よ。う。ま。神亭じんていと。ひふ。打うちむ。劉繇りゅうしゆ。張英ばりえい。牛渚うしづを

破らきたりと聞。大怒り。斬々とさくとさくと諸人。ふんぞ。命を請受。零陵城を固く守り。本陣と神亭の山す。南よ。劉繇孫策。山の北よ。陣を取。ち地の百姓をよん。是山の内よ。後漢の光武帝の廟あり。と問。まつ答とやう。廟へ今よ残りそひ。祭人多き。ごとく破き損。孫策。白からざる。昨夜。光武帝の玉を。むくみと夢と見。り。ゆく行。祭。張昭諫。今山の南よ。劉繇。卒陣を屯せ。て。伏勢あらびい。あらび。孫策。白。神明。玉を擁護。仕事何の怖ること。あるひとと。鎗を提げ。馬。乗程普黄蓋。韓當。蔣欽。周泰。十三人の大將。も。も。神亭の嶺へ登り。破まくる廟の在り。香を焚く。

再拜。心中よ祈念。江東。基業を創り。父の志を継ぎ。を得べ。是廟を再興。と。四時。急。祭。奈と。え。尊神ね。お。力主副。敵軍正不目。討。せふ。と。諸将。と。り。ヤク。山の南よ。敵の本陣。とまじ。倡。ら。す。嶺を。ひそよ。其様子。伺ひ。又。と。諸人。諫。ひ。も。さら。聽。馬を打て。登り。劉繇。孙侯の努。お。を。付。い。そ。を。本陣。報。と。今。孫策。と。十騎。と。引。御方の陣を。伺ひ。と。告。劉繇。劉繇。お。さ。お。孫策。敵。と。帶。き。出。と。計。お。と。お。と。お。と。お。と。太史慈躍り。お。ア。ク。此時を失。ち。が。ト。今。孫策。生。死。どん。何。乃。

時より待べきと志びしる人へとまよ從ぐと。鎗を取て馬より乗只一騎鞭を加へて出立き。座中より年より大一人の太將す。太史慈へまとの猛將す。ヨリともとも。力とそよひといふ跡よほりと馬を出せば満座より多く孫策の敵の陣をよく。又ありて程普と顧み。倡を回らんといふ。山下より太音あげ。ときより孫策よろむた。遂にとあきと呼り。まゆりと登る。孫策後を吃こゝる。馬を止め第をよひて立りまじ。おひちくあくと問ひ。内より孫策へまくる孫策が。你へ何をぞ答へ曰。まよと東菴の太史慈す。孫策と手取よせん為ふあら。孫策笑へ曰。是きまれ孫策す。你が後よまう者と二騎ひとしく菴を勝負

せん。太史慈曰。你は從ふ十三騎馬とあらず。とぐく坐よまきらきと擒みせとく。鎗を拈りて突き。孫策を只一騎馬を出。身をちら。五十余合戦へど。雌雄さらよまく。十三人の大将の見物」と。居しげ。驚ひて醉る。太史慈を。孫策を。武勇。きし。よりも勝さうと思ひ。口を馬を打て深林より走り入る。よひらか嶺とやぐりて。山の後より馬を立て。孫策を。勝負せよ。孫策たゞ怒り。你がおもよ。遂に。あらまこと勝負せよ。孫策たゞ怒り。你がおもよ。遂に。あらまこと勝負せよ。又三十余合を戦つたり。太史慈心より。大丈夫といふ。又三十余合を戦つたり。太史慈心より。思ひ。あらまこと。戦つ。敵より十三騎の兵へ。又。思ひ。只一人あり。生取ませうること。あらまこと。又詠う負と馬へ。



とを追ひて追ひて追ひて。驪の原まで世間をよせ。又とて五十
余台戦ひり。太史慈の孫策が突鎧を身に着け。その
柄と馬のを握り。手を持つ鎧と突鎧を身に着け。その
をゆく其柄を握る。たゞ二川の鎧を引ひまほ。後へ馬よ
りともヨ落ヨタリ。馬へ何とももなく走り去り。一時をうり。引あ
ク。遂に鎧とて。引組上より下。是時太史慈
三十歳。孫策は二十歳。あきらめ勇を奮ひ氣をそげ。く
鎧袍は儀塵と引き合ひ。いま勝負も見えず。孫策の轉さ
まよ太史慈。背とさし。短き戦を取と突んこまる。太
史慈の孫策が被を。盔を打ちだす。そんぐ打あかた。射
戦のひを地を勅うると。劉繇千余騎と馳来り。十三

騎のうち馬と双べ喰ひ。蒐り縦横に相當。孫策太史慈
がなをも離せど。戦ひり。太史慈の孫策が鎧と馬とを取
て。又喰り。蒐る孫策の程普が牽せつて馬と。のうて。千余
騎の中へ突く。すまとも大敵。おのづか難はず。孫策が十三騎。
戦屈と。改めて。忽ち神亭の山際。喊の声えであげ。と
周瑜兵を引いて馳来り。孫策を扶け。たゞ引と戦ひ
り。何果てして。日をひく。西山。沈まん。とまう
と。俄に小大雨降り。孫策を相引ひ。退びたる。

孫策大戦嚴白虎

其の次の日。孫策兵を引く。劉繇が陣みよせ。昨日奪ひ取
たる太史慈が戟を真先に出す。太史慈きたあくも。是戦主

落とし。もろくよ命と助うたりと呼らせられ。劉繇も兵を失。昨日のち。ぎり。監を長き竿とさしあげ。孫策が首をとどまると。呼らせて同音と笑ひ。ちがひとある。太史慈馬を蒐め。いつ。孫策は落失。出で戦ひと決せよと馬一りとも孫策きもと。鎧と盾と出で程普曰。將軍うつゆ自ら輕じて出で某れど某ねがうち戦うんと。馬を打く出で本中慈あざ笑く曰。你何をのぞ。す。對手とあらず。争く。迎去。孫策を生じ来き。程普大よ怒り。馬にトから。討て募り。三十余合戦ふ。劉繇金を鳴して急よ軍を取め。ハまた太史慈引退ひりと問う。曰。是と今敵と擧よせんと。

もと。何と。金を鳴しむへ。劉繇曰。敵の大将周瑜ひそかに。曲阿を取又廬江松滋の人。陳武字子烈。是より。周瑜よ力をあへせや。と。本城を攻取なり。是更よ逗留せば。前後二大敵と。争て叶ひ。と。秣陵へ回り薛禮笮融と。二年。ふひとことぐく引退く。孫策もと追ぎり。と。張昭や々。敵いま周瑜。曲阿をとらま。戦ひんとも力あし。今夜急よよせ。夜討よ仕ふ。孫策志うべと。と。丘を五手よ分。喊主つうてはなり。と。劉繇が陣中。るよ乱き。四紛五落。こんぐよ逃を。と。太史慈躍とす。戦よと。つども力及ばず。りを。十騎あくまう止り。涇縣へ落行。劉繇の許子将といふ。のよ。扶らまこと。もろく秣陵へ逃る。孫策大よ利を得。と。まよ。

陳武を用ひ甚もとて。此人の身の長七八尺面黃は。眼の内朱のど。形容古怪。髯を先手の大將。是定なる劉繇。與力せ。彭城の相薛禮兵。之を催。は聞へ。是も。蹴りせど。ふよも。陳武十騎ある。至り。人勢の中へ打入り。立どまら。五十余人を殺す。薛禮城中より。逃り。四方より攻る。是日馬來る。劉繇。いま笮融と兵を引く。牛渚を攻き。孫策。きしもあつて。自ら打向く。戦ひ。敵の陣より。將子麋。このふを。鎗を提さげて。蒐り。孫策馬を。三合。戰ひ。馬の上を。生取る。とき。樊能といふ。馬を打て。追来る。孫策急度顧。と。你何を。と。近

ばくと。呼う。聲。雷のどくなり。大歎能を。殺ひ。倒さ。落する。孫策鎗を。下す。突き。脇。千靡を。メ。あらず。地。投た。微塵。あらず。失う。ます。江東の人。孫策。勇力を。怖。小西覇王と。号。る。劉繇。目前。頼。切た。二人の大将を。討。とき。先と。走り。ると。孫策。あと。を。追討。殺す。死す。一万余人。降す。もの。殺す。とき。劉繇。力を落す。防べき。す。あう。し。ハ。笮融。討。残す。た。て。み。引。具。荆州へ。行。と。劉表。は。從。か。孫策。勝。乗。と。また。秣陵城へ。没。り。壕の邊。馬を。立。と。薛禮。こ。も。す。降ら。が。え。を。只今。踏。や。ぶらん。と。呼。り。す。が。矢倉。の。上。す。大将。張英。す。引。と。兵。と。射。あ。矢。孫策。が。た。の。腿。中。り。と。馬。す。ぶ。か。と。落。る。

と諸人を引く。本陣より鎧を抜き、樂を傳す。孫策
うを手にぎりとし、諸将と計を定め。前へりて軍
中より喪主楊を矢創急所にて孫策を死にたりと沙汰
し。大々哭き、辭禮を聞て、嘆あうとさうべ
夜討と。一人もあぬをもみと城中の勢をとぐ起。張英
陳橫を真先とし、やと討キ出で。勿心然として後よ喊を立
川とあげて孫策らをあうと呼る。諸軍魂を失ふ。前へ
もととまだ後てもありぞう。まゝ馬下下して地の上よ拌防。降
さんせんと望み。孫策らを一人もあぬとば辞禮を立
き。本うち乱軍の中よと斬死よ失しつか。張英、陳武が達て
突きあざれ。陳橫は蒋欽は射あらざる。孫策秣陵城を取る。
人民を安んじ。たゞ江寧縣よほする。太史慈へ是処を推す
もり。又二千余騎をありめ。きびしく守りて防ぎ。を孫
策ひそく問。瑜よ問や。太史慈と生捉計あるといふ。周
瑜や。是城を三方すり渡す。東一方とひらき。又まとよ
東の方五十里。兵を伏と。彼が走て疲れたると擒えせる。
孫策あらふべと。三方とも息ともほだ。城中の勢
の大半山越のうちもあらゆ。寄手の盛りを布き。落支
度よつて。と右史慈右て。をあつまふ。一度よ門をひ
らいて。討やあらう。孫策が兵よ下知して。兩弓降りて。射る
うち矢よ。もとめでまやう。まゝ城中へ引くと。其夜陳武
真先よもん。壁とのがり。大を構へ戦ひ。まへ太史慈
あらざる。

叶ハドニヤ思ひル。東門す。若行リ。孫策急ニ追蒐て
三十里來リ。史慈ハ五十里。人馬ともはれ。
れ。あがく。蘆原の中。通うとき。俄ハ四方。と。き。と。は
く。熊手。生取。孫策自。その繩を解。錦
の袍を著セ。禮。首を刎。と。座上。請ト。まがた。史慈が曰く
敗軍の将も。首を刎。と。願。孫策や。と。是
よ御辺の忠義と。劉繇。蟲。虫の。と。御辺。用ひ
ず。此の如。也。史慈。あ。う。ば。と。感。と。降らん。と。請
る。孫策。喜。び。手。執。ナ。る。先日。神
亭の戦。御辺。勝。と。田心。ひ。ふ。た。史慈。答へ
曰く。ま。勝負。ま。ぐ。し。孫策。大。笑。ひ。今。日の。ひ。ま。

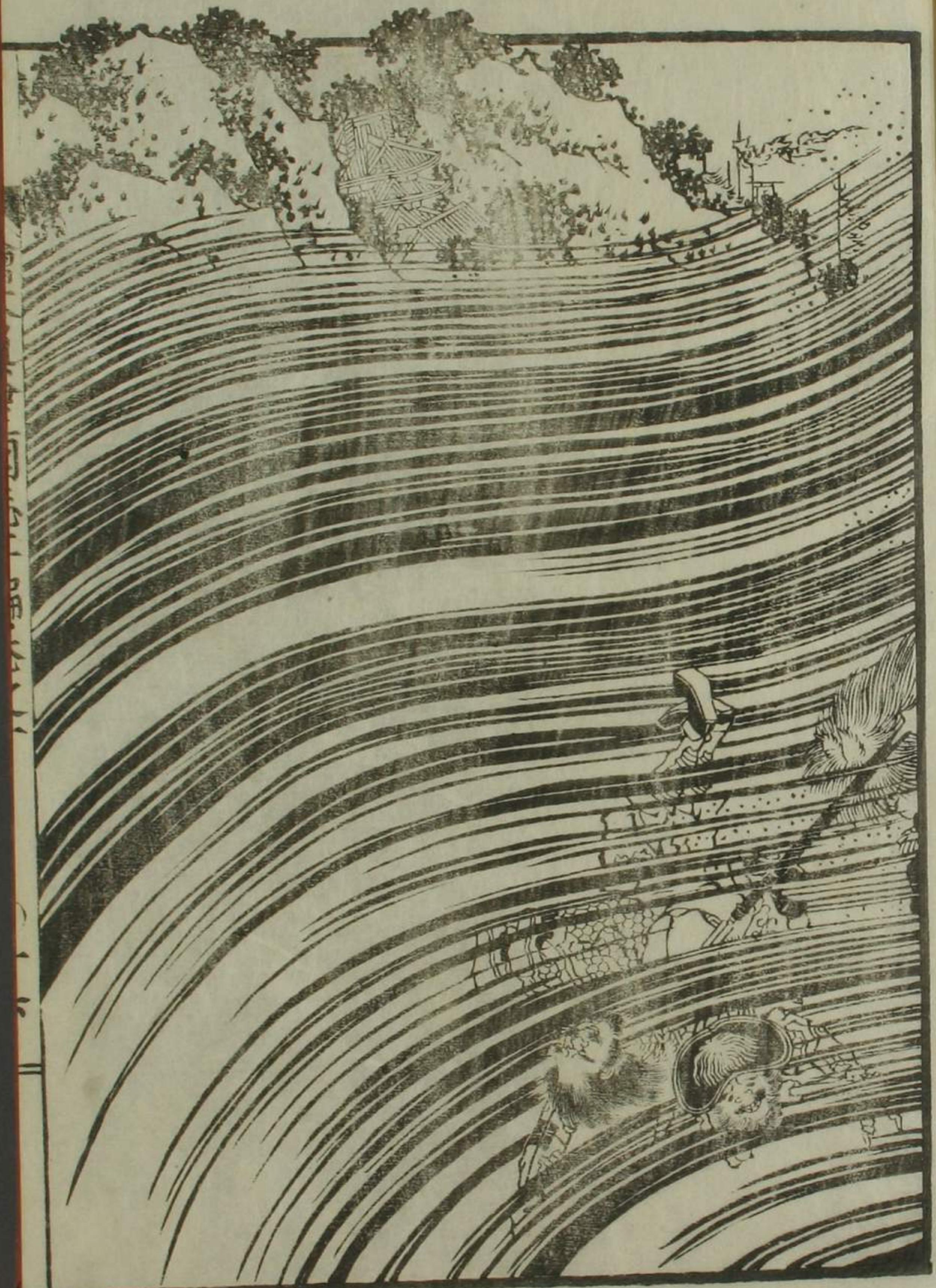
に御辺。議。せん。ね。が。く。良計。教。れ。よ。と。去。ま。太史
慈。白。敗將。も。ど。論。足。孫策。酒宴。セ。り。の。く
持。ほ。昔。韓信。廣武君。計。を。求。む。と。い。ま。御辺
又。計。を。問。う。と。辞。す。れ。と。あれ。と。云。ま。が。太史慈。下
り。劉繇。行方。落。を。と。の。手。の。勢。と。ぐ。散。乱。
と。某。自。行。と。招。來。う。と。ま。又。將。軍。下。降。べ。お。う。れ
ど。も。是。事。あ。ま。く。へ。將。軍。の。く。よ。う。あ。ま。ほ。孫策。よ。る。ま。ん
じ。白。ま。き。本。す。望。む。わ。り。御。辺。と。や。う。不。行。と。明。日。午
の。刻。ま。く。回。り。み。へ。太史慈。ま。で。よ。出。な。ま。か。然。大。將。軍。あ。ゆ
る。今。た。史慈。を。放。り。ゆ。り。彼。う。へ。と。再。び。來。ら。孫策
白。く。を。史慈。の。青。州。の。名。士。信。義。と。以。て。重。と。と。う。る。と。だ

詣りありましと。次の日竿と立て日影を刃せむる。按のども史慈千余騎を引て日中より來る。孫策ふきよ精兵校力を領と。威風遠近をもびく。江東の人毛あきと怕れ。孫郎とよび何ともも孫郎が來とだ。やせん瞻と波へ塊と失あそ。官吏城をきて山野に藏る。孫策す法度を正す。秋毫も犯さとあらう。人民其徳。よ飯と聞け。と來り志がば。貧するをよみ。米とあえ。げは家をほくりて。回じられ。各家業をほきりと懼び。かき。野々ある所。きよひと。老母一族きよとも。曲阿もひ。弟孫權も大將周泰も付て宣城と守ら。や自ら兵主。南方へ打む。あおう吳郡。嚴白虎。

りふもあ。自ら東吳の徳王と号す。大將王晟あと云ひ。と烏城興嘉と守り。孫策が及東と聞て。弟の嚴興みをほけて楓橋本陣とれ。し孫策をよ推す。自ら討く。人としろを張絃諫。やく。丈夫將たる人の善謾。自そ止ふ。して三軍の命を繫る。何くぞ小敵。よ遇す。自ら輕しく出ゆ。口づく中軍。よ在と。天授の次女を重ん。四海の望をそそぐ。國中のひととて上下。金玉の論。ゆき只將士が命と用ひ。とどがをと。韓當と。て。あまと彼と下す。韓當馬と飛して。すか。時。陳武と蒋欽と。小舟を乗て敵の後へ。迫り岸ふ。よく矢と放て。雨のと。あらう。

嚴輿もさう後陣より乱まゝ相撲をきこて遂に了韓當。兵を返す急よ追捕昌門の下より敵を討と殺とまで孫策大軍と引と水陸とをふくと呉城と囲んと三日があひて息をもはげぬを攻きを自ら壕の邊より馬を立て兵を下知もあよ城中より大將とぞおきやのア人高夫倉より手をみて上ある梁を持右の手と孫策と猪し。大音あげよ。さよくよ罵りなきを。左史慈とどくそふへう。憎き奴が体多と馬の上とらとあくも。右と兵と射。あ矢あるまじ。彼敵の左の手と梁あざらる射付たりとき。諸軍感びよもえちばへ休ば此をの志うべき人のやうさん。城中より大勢とりのぼり矢を拔くやくよたと

けへひ嚴白虎ちきよ聞く怖きあひ抜き寄手よ是のどき射手あつよきぐく戦つてかあくかくあい。念にし和睦せんと。次乃日嚴輿を大使と孫策が陣の行ひ孫策對面と酒とをと。半酣みのうるると。俄々劍を抜く。嚴輿が坐した席を砍り立て嚴輿をどうひて倒き立て孫策立ちてやうく戯ひをう。驚くと力と。御辺が兄の意いう。嚴輿曰く將軍と和睦をほ。江東の地を分ちとく。己自らと孫策大よ奴なり。你鼠の革車方よとて吾とどまく。團を分ちとくとひをとて罵りなき。嚴輿事の親ざるをとと急よ起と出へり。孫策をしり蒐りと斬死。その後者よ首を持せて回り。筆へ嚴白虎色と失ひ。右の後者よ首を持せて回り。筆へ嚴白虎色と失ひ。右と



虞翻字仲翔。孫策仁義の兵と聞。嚴白虎、暴虐の衆とあり。是れも。孫策は、献す。りゆくを天に順ふ道を。もむれど。王朗さうよきへきりて、長嘆と。山林に隠れ。王朗ひそだ。嚴白虎と。むくとも。山陰の野に陣を取る。孫策馬を出でて。やくろく。まき。いま。義兵をあしら。漸江を。平げんと。仕ある。ど降らざる。王朗怒て。やくろく。你愁ふ。やくば。もとより。呉郡を取て。又あく来る。まき。嚴白虎。が仇と。そぞら。孫策や。もあつて。自ら討て出んとする。後り。大將一滴。いと生く。りあます。うち太史慈。あつ王朗。刀と。まくと。馬をす。勝負。まぐれを。ざま。も。曾誓の大將周。

折りの馬をとて討てや。また黄蓋又馬を出
火をちて戦ひたる。周瑜程普一軍を引いて敵の後す
蒐りて王朗大をこれで城中へ逃る。孫策四方を
息をもはせぬ。王朗自を防ぎて討て
出をろそ戦うんといふ。嚴白虎や孫策大勢な
りといふ。遠路を來りたまに急に戰ひて勝せつと望
む御方をかく城を守ら。彼兵糧はすと一月の内
自らえらん。其虚に乗じて討べと四門を開て
菜地を構へて守る。計とて孫策をと憂く。
いきせんと謀まる。叔父孫靜や王朗を守てまの城急に
落し。會替の金銀兵糧の大半を査瀆といふ。此す

三日よ後十里を隔たまをまづ。此處とて。査瀆を及
ん。その不意に出でてうちて破らん。孫策も同ト。即ち
下知をもとて陣中は多く薦火を焼せ所も旗も
りを立て。疑兵をほ。夜中は圍みを解じ査瀆へむ
せる。周瑜が曰く。大軍一度よ志りぞく。敵の追とあつて
寄兵を以て破りゆ。孫策曰く。よきもどよ計あり。此城
を取とらう。今夜ちうんと遂よとぐく打ち立てる。正
朗が乍候のまゝ。寄手とて。ありぞとくと
告げられ。諸人あすん。矢倉すよ。城外は薦火へく。
立ぼう。旗繋へたり。王朗が曰く。孫策よふゆ。今急
よ志りぞくべき。周瑜が曰く。あれよき。ホウ急に追へとと怖

きそ。うれぐあらんとの計なり。孫策兵糧をきて。あづぞやと
るあらん嚴白虎やくろへ御邊のん。まよ洞。孫策うそ
らぶ。查流と取ん。そこやく追菟べ。王朗曰く木見流の
事。第一の所。二人早よ打むべ。まきひ後陣。ほん
くべ。嚴白虎いそだ。五千余騎を引く。その夜一下里を
り出立。初更のころ。ましもようぬ林の内す。臧のあえ。
ひまとある極の敵の計略あつて。すみやくさうんとさ
れを四方より火をうけ。孫策途をさえにまき。周昉まで
さきよまん。路といらきく。一鎗の実あるまきけれど。
その勢力とぐく降人とする王朗も後陣はそあく。をとよ
城を出立。先手の破きたを聞く。叶ふとも思ひ。跡

つゝ歎しき。海隅へ落失。嚴白虎へ這々逃て餘
杭へ走マリ。董裏字へ元代とふり。迎て酒と食ふ。
密々首と斬て孫策へ献ず。此ふ於く南方。ごく
平均ノタミ。孫靜と留て總守らしめ。朱治と呉郡の太
守もす。時小早馬とくろく申る。孫權。周泰二人宣城と
守ふ所。小俄。小山賊。四方より推よせ。時小夜。深く
かく。舟をくろく。周泰と一人孫權と助て出んとす。ふ
賊軍競ひ。蒐そく危うく。周泰身か甲よ。披す大
勢と打破。すく小圍と出ま。鎧と突き。瘡十二ヶ所
あり。苦痛甚しき。己ふ危よと告げ。孫策大驚く。
董裏すまき申り。まじか。海賊と戦く。身を失ふ。

と被ひひと會督の虞翻とよも。名譽の医者とす
り。十日之内平愈せり。孫策曰虞翻と虞仲翔ごと。
董襲曰かふと知る。孫策曰向ふ張昭この人と薦来
る今功曹の令をしらむ。急に虞翻を命じて医者と招う
し。忽ち小伴ひ来る。孫策するら對面すよ白髮丈
餘出塵の客らりうる。その名とあは。沛國譙郡の華陀字
元化と云ふ。耽々周泰、瘡と療治せし。是れ
難と夏とあんとく。弟と50歳一月の頃を平復せり。
孫策まことに山賊と尽く平ぐ。江南八十一郡の内す。手ふ
きる者もかけとく。諸将と令へ要害を守り。十万の勢と集
り。廣く賢能の人と招き勢い遠迫す。朝廷に表

と捧げ。曹操と文と結び。又袁術が方へ使と馳く。豫州を
とる傳聞の玉璽と水しづか袁術のみ。帝位を即んと
なり。廣く賢能の人と招き勢い遠迫す。

